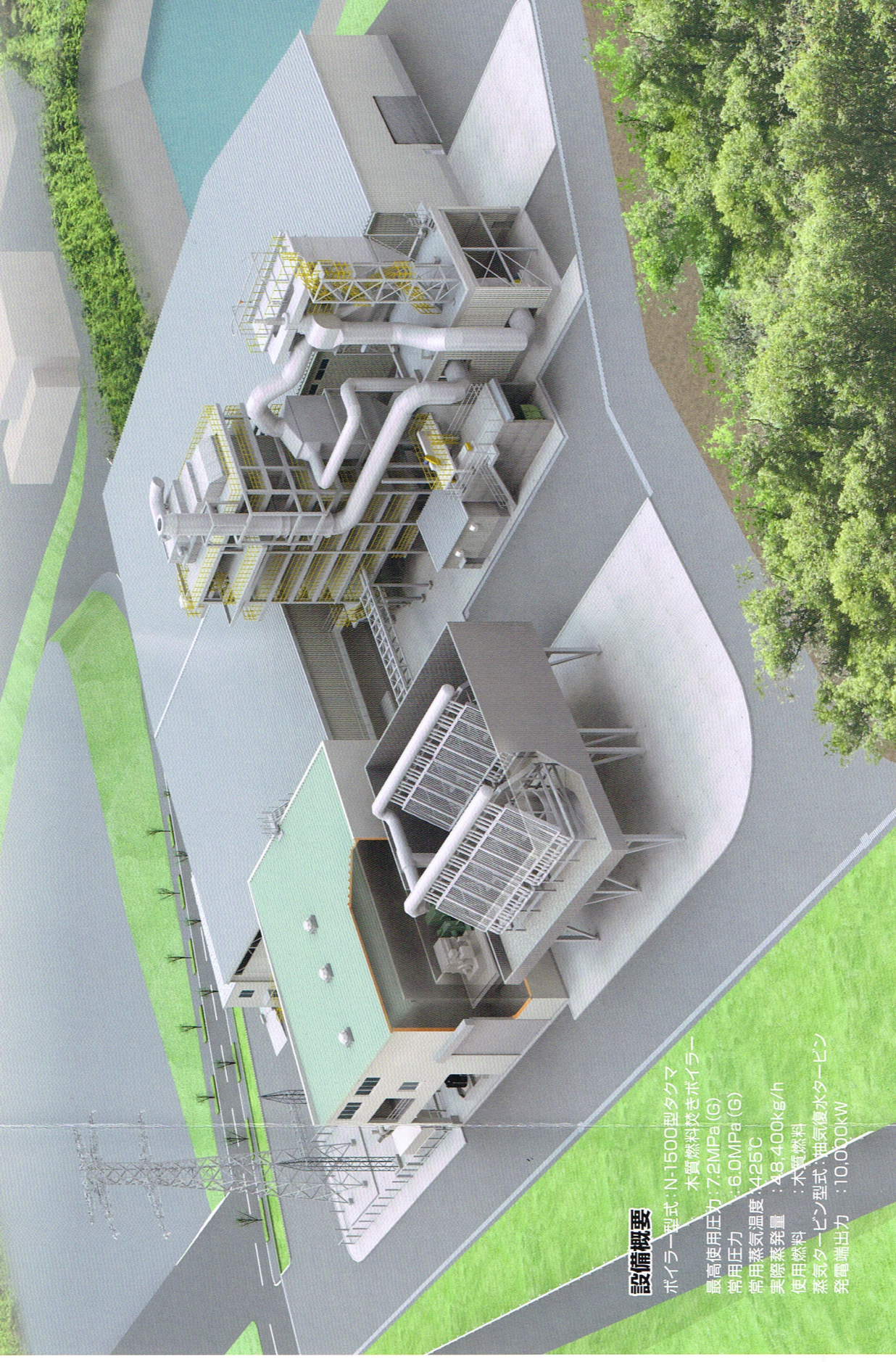
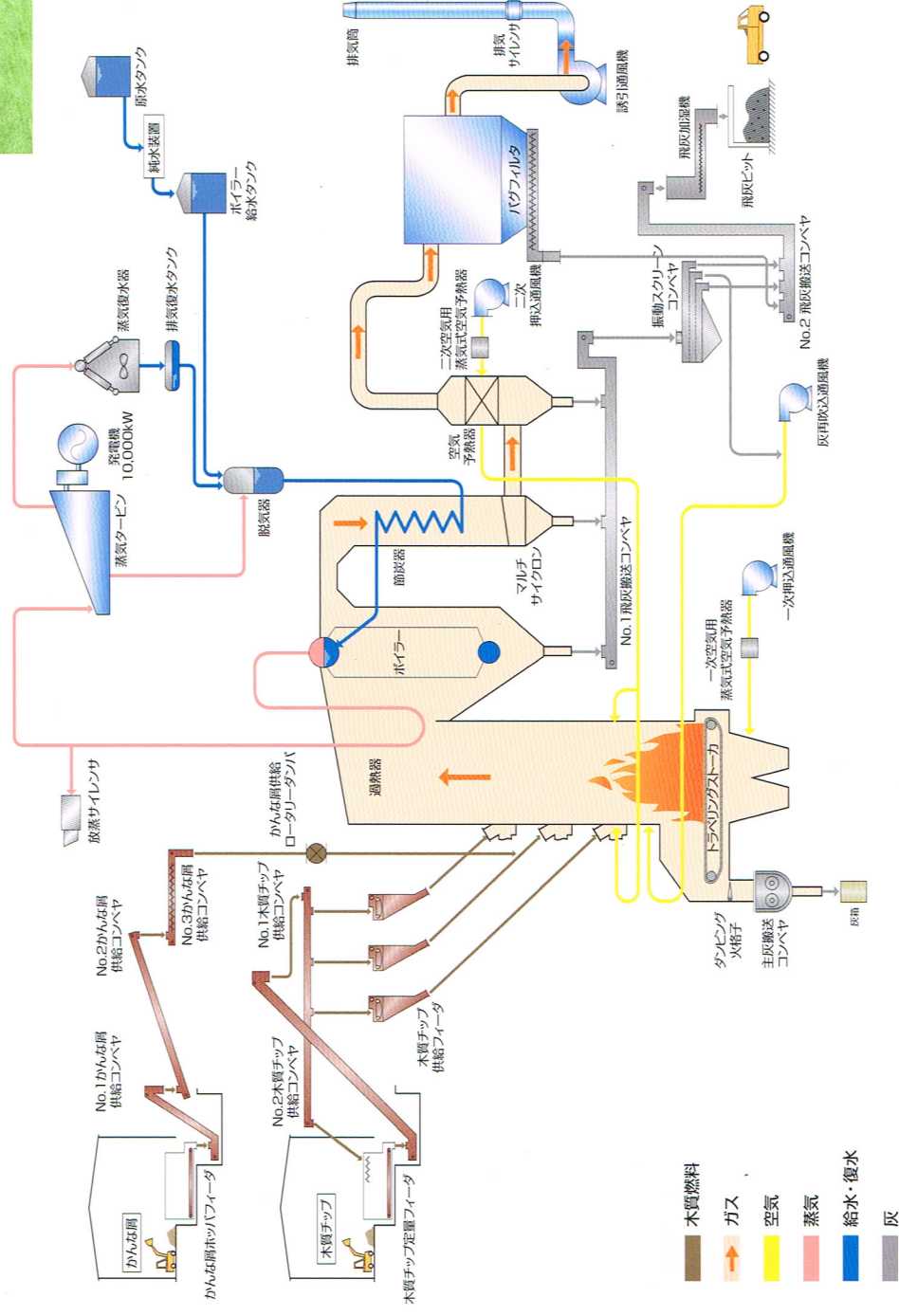


地域資源を利用した 発電出力10,000kWの 木質バイオマス発電設備

真庭バイオマス発電所は2015年4月に稼働を開始しました。
燃料としては、真庭地域の間伐材をはじめとする未利用木材を年間90,000トン、
真庭地域の製材所にて発生する製材端材を年間58,000トン使用する予定です。
これにより10,000kWの発電を行い、発電所内で使用する電力を除く
約9,000kWを販売します。
この発電量は一般家庭約2,000世帯分の需要量に相当します。
この電力は、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を利用して電力会社に
供給されるほか、地域内への電力供給の仕組みづくりも目指します。

バイオマス発電所の仕組み



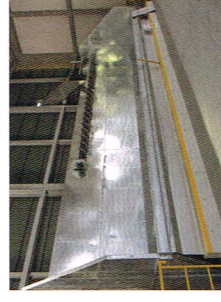
設備概要

ボイラー型式：N-1500型タクマ
木質燃料投下ボイラー
最高使用圧力：7.2MPa(G)
常用圧力：6.0MPa(G)
常用蒸気温度：425℃
実際蒸気発生量：48,400kg/h
使用燃料：木質燃料
蒸気タービン型式：油気復水タービン
発電端出力：10,000kW



燃料ヤード

木質燃料を受け入れ一時的に保管します。



木質チップ定量フィーダ

木質燃料を定量供給する機械です。



木質チップ供給フィーダ

ボイラーに木質燃料を供給します。



トラベリンググスタカボイラー

木質燃料を燃焼させて蒸気を発生させます。



蒸気タービン・発電機

蒸気を利用して発電機を駆動させ電力を発生させます。



一次・二次押し込風機

木質燃料を燃焼するための空気を送りまます。



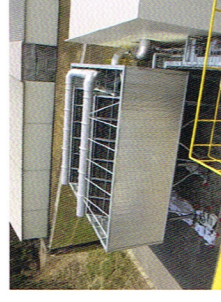
バグフィルタ

排ガス中の煤塵などを除去しクリーンな排気にします。



誘引通風機

バグフィルタでクリーンとなった排ガスを大気へ放出するため排気筒へと送ります。



蒸気復水器

蒸気を冷却し水に戻します。



中央操作室

ボイラー及びタービン発電機その他補機類はすべて中央操作室で管理されます。